

すべての原発いまずくなくそう！ 全国会議

# NAZEN 通信



第17号

2014.9.14発行

カンパ5・0円

発行：NAZEN 事務局

東京都杉並区天沼 2-3-7 さかいビル 3B

info@nazen.info

## JR 郡山工場 10・1 外注化阻止 労働者のゼネストで安倍たおせ！

原子力規制委は9月10日、川内原発1・2号機を「規制基準合格」とした。避難計画は渋滞も鑑みず「30時間かかり被ばくする」計画。噴火の火砕流問題もノータッチ。田中俊一委員長自らが「基準への適合性を審査した。安全だということを私は申し上げます」と言うような代物です。8月24日の福島県民健康調査検討委においては、小児甲状腺がんが104人（疑い含む）を数えるも「原発事故の影響ではない」と切り捨てた。安倍首相はこうした現実を無視して、原発と武器の輸出先を求めて外遊ばかりしている。何が「国民を守る」（7・1集団的自衛権閣議決定）だ。冗談じゃない。原発と戦争で殺されてたまるか。安倍政権を今すぐ倒そう、これが人々の声になりつつある。

戦争・原発をなくすこと、社会を変えることはできる。9月11日のJR総合車両センター外注化阻止のデモには650人が集まった。財界の攻撃の柱である外注化は、業務委託と労働者の非正規化として進み、貧困を作ってきた最大の原因だ。そして貧困は徴兵制につながり、多重下請けと被ばく強制的原発労働につながっている。この外注化を認めてたまるかと闘いが起こっている。東日本の列車の安全を根幹で支え



「外注化反対とマイクで言えるのは気持ちいい！」動労総連合の青年部が、日頃の職場の外注化への悔しさを解き放ってデモの先頭に。近所の方々も手を振ってくれた。（9/11）

る巨大な工場と、立ち上がる労働者の姿を見て、労働運動が生き返る息吹を感じた。外注先に労働組合員を出向すれば、闘いも波及する。敵も矛盾だらけだ。職場で1人から始まった闘いは、3・11の震災を生き抜く闘いを経て、人生をかけた仲間との闘いになっている。どこの職場でもできる、やろうとデモ参加者が決意したことも本当に大きなことだった。

デモをゼネストへ。労働組合が立ち上がれば全く可能です。そしてその希望が見えた。安倍政権も矛盾だらけだ。川内原発再稼働にみんなで反対の声をあげよう☆（織田）

◆ JR 郡山総合車両センター外注化阻止 9・11 集会報告	…	2～3ページ
◆ 9・7 ふくしま共同診療所報告会レポート	…	4～5ページ
◆ 診療所とつながり、全国で保養運動広がる 広島 平塚 北富士	…	6～7ページ
◆ 保養の収支 今後のスケジュール 年会費納入のお願い	…	8ページ

## 9・11郡山集会の発言（要旨）

### 絶対反対で郡工の団結を守り抜く！



#### 橋本光一さん

(国労郡山工場支部)

7月1日、安倍政権は集团的自衛権行使容認を閣議決定しました。国鉄分割・民営化当時、中曽根首相が「国労をつぶせば総評がつぶれる」「労働組合をつぶして立派な憲法を床の間に安置する」と言ったとおりに進んでいます。戦争阻止のためには、労働組合がもっと強くなる必要があります。

日本中に吹き荒れる民営化・外注化で利益のみを追い求めた結果が福島原発事故、JR北海道の安全崩壊です。JRは、10月1日に郡山総合車両センターの一部を外注化しようとしています。

国労の全国大会において、名称変更や企業別組合にむけての組織改編案が出されました。分割・民営化から27年、もう少しで国労の息の根を止められると思っていた矢先、郡山に火がついたら全国に飛び火してしまう、なんとしてもそれは阻止せねばという強い意志が働いています。労働組合をつぶそうとするのは、労働者は必ず立ち上がることを知っているからです。これは国労を組合員の手に取り戻す闘いです。

世界情勢を見れば、戦争か革命かが問われている時代。階級分岐と党派選択が始まっています。太平洋戦争の過程、共産党がつぶされ、日本の労働組合も産業報国会化し戦争に加担していきました。戦前と違うのは私たち階級的労働運動派がいるということです。職場で闘う労働組合があっては、戦争は絶対にできません。

郡山工場では、外注化反対を貫き、会社の計画を数年間遅らせ、強制出向をとめてきました。被ばく列車K544に対しては、通常作業をしるというJRに対し、防護服着用と作業から青年を外すことを認めさせ、青年や外注会社労働者との交流も勝ち取ってきました。

私は郡工の仲間と毎日胸が締め付けられる思いをしながら議論を重ねてきました。お互い입니다。国鉄分割・民営化を思い出しました。「自分の首を守るために仲間を裏切るのか」という議論がありました。4党合意のときも、4・9政治和解のときも、強制出向攻撃のときも、激しい議論をし、最後は同じ方向を向いて歩いてきた40人です。

#### ●外注化反対の思いは同じ

今日の集会は、支部主催の集会でなくて本当に残念ですが、国労組合員は本当に揺れ動いています。国労以外の労働者もこの集会を本当に支持してくれています。なによりJR会社がびびっています。わざわざ今日の対策のために、仙台支社が郡工の総務課に指導に入っていると聞いています。

これは郡工だけの闘いでは止まらない。安倍・葛西を倒す国家との闘いだ。動労千葉や動労水戸のようにたたかうことが勝利の道です。外注化も強行後に矛盾が深まる。分割・民営化以降も郡工支部の団結が続いているのは、みな誇り高い労働者だからです。外注されてもなくなりません。9・11の闘いをやりきったとき、労働者全体に伝播し、階級の中核が郡工のなかに生まれるはずです。

郡工の労働者も、3・11を生き抜いてきました。すり抜けてきた者は団結できません。放射線に声をあげると仕事がなくなってしまう、そういう分断攻撃に対して、闘ってきたのが郡工の労働者です。

私たちに自分の思いを重ねている人が全国にたくさんいます。郡工の労働者と原発労働者と共同診療所が結びついたら本当にすごいことになります。

まわりがどうかじゃなく「外注化は絶対に許さない」という自分の気持ちにたっていないと青年の心に届きません。今主導権を握っているのは私たちです。絶対反対で郡工の団結を守り抜きます。



## 必ず労働者は立ちあがる！



### 辻川慎一さん

(動労水戸副委員長)

今日ストライキで駆けつけています。外注化との闘いは動労水戸・動労千葉だけでなんとかなる問題ではありません。JR東海の葛西と安倍首相が結託して集団的自衛権の閣議決定をし、労働者・農民の子どもたちを平然と戦場に送れる連中が外注化を推し進めている。

20代の75%は失業か非正規。労災事故死でも外注会社の労働者が殺されている。外注化を1ミリでも許したらどうなるか。福島第一原発では三重、四重下請け、何がどうなっているかわからない。危険手当はどっかに消え去る。病気になったら解雇、事故があればその会社との契約をやめる。JRの外注化は、今我々がたかかわなかったら、さらに決定的な状態になる。

職場では日々外注化への怒りは高まっている。必ず労働者は立ち上がる。郡山工場の、とりわけ青年に私たちの火を燃え移らせる闘いだ。我々は労働者階級だと伝えましょう。

動労総連合を9・11を突破口にして全国に作り上げる。みなさんの最先頭で組合員とがんばります。

## 新宿駅も郡山につづく！

### 国労新橋支部 新宿駅分会の仲間



東京駅では、100人以上の仕事が新幹線の改札と出札で外注化され、70人規模で現職が強制出向されています。新宿でも20人ほどが外注化され、エルダー含めて全員が現職およびエルダーでやっている職場があります。そういう外注化を許してしまったということもありまして、ぜひ郡山とともに新宿も続くということで、分会で執行委員会にかけまして、分会長以下賛同を得て、檄布の寄せ書きを持ってきました。新宿でこういう運動はほとんどやっていませんが、今回初めて私の思い、国労の思いが通じ、たくさんの労働者の

署名を集めることができました。私たちも郡山工場に続くべく闘いますので、ともにがんばりましょう。

## すべての怒りを11・2労働者集会へ！



### 田中康宏さん

(動労千葉委員長)

国労本部が外注化協定を締結するだけではなくて、労働組合を解散して会社ごとに割ろうという状況の中で、一支部が外注化絶対反対を掲げることは大変なことだったと思います。にもかかわらず、国労の幹部たちは闘いの中止を命じてきました。今日この場には来ていない国労郡山工場支部の仲間たちは、引き裂かれる思いでいると思います。

すべてはこれからです。僕らも、たとえば三里塚のジェット燃料阻止闘争に立ち上がった時に、首をかけて闘いを始めたら、それを中止しなければ統制処分だと弾圧してきたのは当時の動労本部でした。だけど僕らは絶望しなかった。これを断固として闘いぬいて、統制処分が来て、僕らは動労千葉を結成しました。そこから、分割・民営化と闘える体制ができたんです。

この外注化という攻撃が未来を奪うのは、何よりも青年たちです。彼らはみんな見えています。このままいったら働く職場がなくなるんだよ。強制出向、下請会社に転籍ですよ。仲間たちの外注化反対の気持ちは絶対変わりません。半分以上はおそらく下請けの労働者たちです。僕らは外注化反対闘争をやって、5月2日のストライキをきっかけにして、3名のCTSという下請け会社の仲間たちが結集してくれました。

一番大事なことは、資本が外注化反対闘争をつぶしにくるのは当たり前、しかし実際につぶしているのは、その手先になった労働組合なんです。ここが変わったらすべては変わるんです。現場から闘う労働組合をつくり直す新しい一歩が今日始まった。声は届いています。今日集まったすべての産業、すべての職場で声を上げて、その怒りをすべて11・2労働者集会に結集させてください。ありがとうございました。

# 第5回ふくしま共同診療所報告会

9月7日午後に福島市駅前の「コラッセふくしま」で、第5回「ふくしま共同診療所」報告会が開かれた。130人が集まり、真剣に聞き入り、議論を交わした。

## □松江院長、平岩医師、布施医師から診療報告

まず、共同診療所の3人の医師から診療報告が行われた。

松江寛人院長からは「甲状腺エコー検査から見えてきたもの」と題した報告。松江院長は、12年12月の開院以来、共同診療所が6人の医師により、全国からの寄付で支えられて発展していることを誇りと自負に満ちて語り、冒頭から参加者の心をつにじた。そして、開院から今年3月までに来院し甲状腺エコー検査を受けた900人について、初めて検査結果の分析を示した。

18歳以下ではなんらかの異常があるのは、60%と非常に高い。小さなう胞がたくさんある「蜂の巣状」は18歳以下の11%にも及んでおり、明らかに異常。兄弟姉妹の検査を受けた168人のうち75人(45%)もが「共に異常あり」となっている。だから「半年に1回は必ず検査をしなければならない。共同診療所は責任を持ってやっていきたい」と強調し、「甲状腺のみならず全身の健康障害のチェックと長期的な健康管理」を課題として上げた。

続いて、平岩章好医師から「血中甲状腺ホルモン値について」という報告があった。甲状腺の血液検査を6項目で行い、甲状腺炎や機能低下を調べるもの。6月末までに共同診療所で甲状腺の血液検査



を受けた358人のうち、潜在性慢性甲状腺炎・疑いが48人、13.4%にも上った。福島県の第2次検査での血液検査結果との比較も行われた。エコー検査だけでなく血液検査も行い、政府・県による血液検査での隠蔽や言い逃れを許さない共同診療所の姿勢を強く示した。

さらに布施幸彦医師から「県民健康調査を批判する」「仮設住宅訪問」の報告があった。



8月24日の検討委発表では、疑いを含め甲状腺がんが104人にもなった。「本格検査」ではB判定が46人も出ているのに、「予備検査」での判定は公表されておらず、AからBに変化したのなら大問題。中通りに近い会津東側を高汚染地区に入れて悪性ないし悪性疑いを見ると、東側で9人、西側で0人と、県内でも発症率には明らかな地域差がある。その上で、福島は全県が高汚染地域で、どこでも甲状腺がんが発生しうる。さらには北は宮城、南は群馬・栃木・茨城・千葉の地域でも小児甲状腺がんの増加が懸念される。だから「全国で小児の甲状腺エコーを行うべきだ」と力をこめた。

また、仮設住宅で月2回のペースで健康相談をしており、布施医師が常勤となって、相談会前に戸別訪問するなど、仮設住宅の被災者に寄りそう取り組みを強めている。最後に、半年に1回の甲状腺エコー検査、非がん性疾患の早期





発見・治療、被曝労働に従事する労働者の健康を守る取り組み、甲状腺がん急増という危機的事態に対する県内外の医療関係者の協力の呼びかけ、避難・保養の要求と支援、など共同診療所の考えをまとめて提起した。

### □崎山医師が「放射線による老化」で講演

昨年に引き続き崎山比早子医師（高木学校）から、「非がん性放射能障害について——老化の促進に関連して」という講演が行われた。①



まず、危険きわまりない福島原発事故現場がリアルに暴かれた。とくに事故現場に残された放射線量は、事故時に放出された量の約800倍にも上る。

②被曝によるがん以外の疾患は無視されてきた。老化の研究は進んでおり、そこから放射線の影響を知ることができる。特に動脈の内側の細胞である動脈内皮細胞が老化すると、動脈硬化が起こる。その老化の原因は加齢だけとは限らず、放射線が老化を促進する。

③細胞には寿命があり、一定回数分裂すると分裂能力を失い、老化する。分裂できなくなるのは具体的には、1) 染色体の末端であるテロメアの長さが短くなるから。2) DNA損傷が蓄積し、修復不能となる場合。間違えた修復では変異が起きてがんの原因となるが、修復不能は老化につながる。3) 細胞内のミトコンドリアはそれ自身がリング状のDNAを持っているが、その変異蓄積が老化を起こす。

共同診療所の医師も「聞いたことがない」というような専門用語が出てきたが、放射線がこの3つを引き起こすことにより細胞の老化を促進させるとまとめられた。

結論は「放射線が非がん性疾患を引き起こす科学的根拠はある。それがないとされるのは、政治的経済的評価がなされているから。科学的根拠に基づいて人権の視点からの評価が必要である。そうして原発のない社会につなげる」。最後に12年7月の代々木公園集会の写真を示

し、「小さな力でも連帯し、私は連帯という言葉が好きですが、つながっていけば、安倍政権に反対できる」と結んだ。

### □質疑・応答で今後の課題も議論

それまでの全発言を受けて質疑・応答が行われた。最初に福島第一原発で働いたことがあり現在は除染労働者である男性が、自身の被曝状況を発言した。布施医師は、「健康で働きたい、という除染労働者などの健康と生活を守るために共に闘う」と強調した。崎山医師は「必要な所は除染すべきだが、高汚染地域は除染は必要なのか疑問に思う。せっかく避難してきている人たちを帰そうとする。ちゃんと避難して生活できる所を作るべき」と語気を強めると、大きな拍手が沸いた。

女性から「年間の外部被曝線量は本当はゼロがいいのだろうが、実際にはどこまで許されるのか」という趣旨の質問。これには崎山医師が「法定限度の1<sup>ミリ</sup>だって1万人に1人はがんになる。11年9月の国際会議でICRPのゴンザレス副委員長は『1<sup>ミリ</sup>には科学的根拠がなく、社会的に決めた』と言った。チェルノブイリ法では、妊婦と子どもは0・5<sup>ミリ</sup>で避難の権利としている。特に内部被曝量はだんだんたまっていく」と基本的考えを強調した。

また、質疑応答で、県立医大も2～3歳以下は細胞診はやっていないのではないかと議論となった。松江院長が「がん以外のことで、どういう診療所にしていけばいいのか、と考えている」と提起し、崎山医師から助言もあった。終了後、同会場で個別の健康相談が行われた。会場後方には各地の今夏の保養報告が展示された。

今回の報告会は、政府・県が「過剰診断」などと言って健康検査そのものをやめさせようと狙っている中で、共同診療所の位置と役割がますます重要になっていることを示すものとなった。その内容の画期性もさることながら、社会的な注目、スタッフの精力的動き、各地の保養に行った福島のお母さんの参加が印象深かった。

## おいしい米・野菜と川遊び

**安芸太田保養支援グループ**  
**・NAZENヒロシマ** (大江厚子)

安芸太田保養支援グループとNAZENヒロシマは、今年初めて「福島原発事故の被ばくから遠ざかる“親子で保養”」に、広島市から北西60kmの過疎中間山地である安芸太田町で取り組みました。空き家を3軒用意して、生活用品や地元の食材を整え、そこで被ばくに脅かされることのない本来の普通の生活を送ってもらう支援です。安芸太田の仲間や住民、労組や全国の支援者の協力をいただいて、7月20日から8月18日までの期間7家族(大人9名、中高生8名、幼児5名)がおのおの平均1週間の保養をされました。

子どもたちは、プールで泳いだり川遊びをしたり、走り回り、思うぞんぶん泥遊びを楽しんでいました。また地元の人たちとの食事会、お好み焼き会、お話を聞く会も持ちました。精力的に安芸太田を見て回った福島のお父さんは「次は、私が保養に来た人を案内しますよ」と言ってみんなを笑わせて下さいました。

放射線被害から遠ざかり、子どもを自然の中で不安なく制限することなく遊ばせることのできる開放感やまわりの保養への理解に安心して、元気に楽しそうに過ごしておられましたが、時に心の中にある福島での生活の不安を話されます。「子どもたちはこのように元気そうにしていますが、本当はあまり元気ではないんですよ。私(母親)も心臓の調子が良くないです」「うちは3年半たってもまだ除染がされてないです。今さらですよ」「避難が難しいから保養は本当に必要」。

事故当初のことについては、「食べ物もガソリンも何もなかった」「インフラの仕事だからずっと修復作業にあたっていた」「子どもたちにヨウ素剤を飲ませればよかったのかと後悔している」「チェルノブイリを思ってすぐ自主的に避難した」。

また、「食の安全はこの資本主義の中ですべて奪われている」とも。安芸太田の空に轟く米軍戦闘機の低空飛行訓練の轟音を聞いて「ああいうもの、全部いらぬ」と。

保養支援を終えて以前にも増して考えることは、保養に来られた人がふくしま共同診療所とつながって日常的に体調をチェックすること、そして情報交換の場でありさらには避難・保養・医療の権利要求の運動体として保養・避難の経験者・関係者の組織を作ることが必要だということ。

一人ひとりの言葉を聞きっぱなしにはできない!と思います。



## 新たな試み3つ取り組む 福島医大での検診の実状

**福島親子とともに・平塚(文責 小嶋倫子)**

(1) 新たな試み。7回目となる今年の夏休み保養受け入れは、今まで参加された家族に呼び掛けて実現した6月末の現地交流会を踏まえてスタートした。新たな試みの第1は、これまでの借家の一軒家から、同時にリピーター家族など複数家族を受け入れられる宿泊場所をもう一軒確保した。第2は、「お客さんではないので自分でできることはしたい」というお母さんの申し出もあり、食事を自炊したり、交通手段を新幹線から高速バスに切り替えたり、食材を自己負担にするなどした。第3は、スタッフの尽力により自分たちで畑を借りて夏野菜などを栽培し、保養家族が来た時に収穫・調理しながら食育体験ができるようにした。

(2) フクシマは語る。今回見えた家族の皆さんとスタッフ・ボランティアとの交流会でも、福島の現状の様々な切り口を突き付けられた。第1陣の家族は「浪江町の強制避難させられた人々は働くとその分補償金が減らされるので働



く意欲をそがれ、補償金浸りの生活をしている」と語る。補償とは、失った本来の生活を取り戻すためのものではなかったか。第2陣の家族は福島医大で受けた子どもの検診について話してくれた。「検診を受けるために色々なことを承諾させられた。『異常あり』になったとしても心配ないと、繰り返し聞かされた。アンケートに何でも書いて下さいと言われたのでびっしり書いたら、『お母さんは心配し過ぎ、うつ病のよう。子どもに悪影響を与えるので相談に来て』と言うので『結構です!』と断った」と。第3陣の2家族の人たちは「目に見えない放射能を目に見える形にして明らかにしていこう」と自分の周りの放射能測定(マップ作り)をしている。

(3) これからの展望。私たちのところに保養に来た家族が、NAZENに連なる千葉や東京の保養先に参加しているという話が聞かれるようになったのは嬉しい。NAZENの考えを早急に押し付けることなく、福島の家族たちとの地道な保養受け入れ活動を積み上げながら、ふくしま共同診療所を核にしてつながっていく。そして「自分たちも声を上げなければ」という福島の親たちと連帯し原発廃止や戦争反対に向けて一緒に行動できたらと思っています。



## 北富士で思いきり砂遊び 福島の母の葛藤を共に

NAZEN東京(富田翔子)

2年目の北富士保養、今年は福島から5家族をお迎えして、事故もなく、天候にも恵まれた2泊3日でした。子どもの参加者数が去年の3倍! 川辺の散策も、水遊びも、バーベキュー、絵画教室、ほうとう作り体験でも、はちゃめちゃに元気な彼ら。新たなスタッフの方が植物などにとても詳しく、川辺の散歩も深まって、クル

ミヤカリンの木、花筏やせっけんの実など、自然の中にある当たり前の豊かさを、取り返していくようでした。

印象的だったのはバーベキュー場でのママたちとの対話。子どもたちは、誰が言い出したわけでもなく、そこにある砂利と土で「富士山とおしのはっかい忍野八海つくろうぜ!」と、拾った竹で作ったスコップ、ペットボトルで汲んできた湧き水で、みんな思いっきり泥んこになりながら遊んでいました。缶ビールで乾杯していたママたち、泥まみれの我が子を見ながら「ほんと、こんな風に遊んでほしいだけなのにね」と涙が滲んでいました。

「保養弱者」という言葉があるそうです。ひとり親家庭や労働環境で、保養に行く意志はあっても行けない、当然、避難したくてもできない。保養のために有休がとれても、自分が休む分、保養に行けない同僚に申し訳ない気持ちがある。色んな「保養」に参加したけれど、ここまで切実な想いで来ているのではない方が多かったり、ほかのおうちはパパがいたり、逆に疎外感や不安が増してしまったり。こういう話をできるっていうこと、考え方が同じなんだと安心して過ごせるのが何よりも保養になる、と。

福島で母として生き闘い、日々葛藤するママたちの残酷な現実を、共にすることができているだろうか、と突きつけられました。NAZENの原点、「福島と共に闘い、生きること」。だからこそ反戦・反核・全原発即時廃炉だということに、常

に立ち戻らなければ。厳しさと豊かさのぎっしり詰まった保養でした。

(詳しくは「富士山のふもとで夏休み」報告集にて)



# NAZENスケジュール

**東京**

川内原発再稼働するな！  
フクシマを忘れない！

## 9・23 さようなら原発 全国大集会

9月23日（火・祝日）

場所 東京・亀戸中央公園

（ Deng熱問題により代々木公園から会場変更！

予防のため防虫スプレーや長袖などの対策を  
お願いします）

11:00 ブース開店

12:20 オープニングライブ

13:00 トークライブ

14:30 デモ出発

主催 さようなら原発 1000万人アクション



**鹿児島**

ストップ川内原発再稼働！

## 9・28 全国集会

9月28日（日）

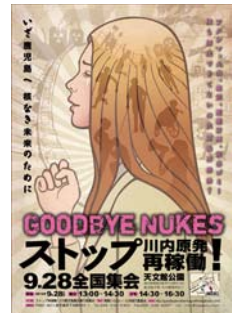
場所 鹿児島市・天文館  
公園

（鹿児島市千日町 9-30 天文館電  
停近く）

13:00～14:30 集会

14:30～16:30 デモ

主催 ストップ再稼働！ 3.11 鹿児島集会実行委員会



## 北富士保養 会計報告

・収入	くりこし	21.939
	カンパ	988.686
	参加費	105.200
	収入計	1.115.825
・支出	交通費	287.578
	宿泊+食費	369.700
	諸経費	101.528
	支出計	758.806
・残高		357.019

100万円を超える暖かいカンパのおかげで、充実した保養をおこなうことができました。ありがとうございます。来年のために引き続きご支援よろしく申し上げます。（会計 小林）

世界の労働者と団結し、戦争と民営化の道を許すな！  
今こそ闘う労働組合を全国の職場に！

## 11・2 全国労働者総決起集会

11月2日（日）正午

東京・日比谷野外音楽堂

呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部

全国金属機械労働組合港合同／国鉄千葉動力車労働組合



NAZENの活動をぜひ年会費で支えて下さい。毎月の通信を発送致します。年会費は、個人一口2000円、団体一口3000円です。半額ずつ各地のNAZENと全国財政として使わせていただきます。会計年度は1月1日～12月31日です。皆様のご協力をお願いします。

### ◆◆◆ 郵便局 振替口座 ◆◆◆

口座番号 00120-8-763817

加入者名 すべての原発いまずぐなくそう！全国会議

銀行口座からの振込の場合 ○一九店 0763817

※振り込みの際は、「年会費〇人、〇団体分」

「保養カンパ」などお書き下さい



### ◆◆◆ 診療所基金はこちら ◆◆◆

#### 福島診療所建設委員会の口座へ

★郵便振込口座 02200-8-126405

福島診療所建設基金

★銀行口座

福島銀行 本店(110)普通 1252841

福島診療所建設基金 代表 渡辺 馨

★PayPalでのお振り込み

アカウント

clinicfukushima@yahoo.jp

渡辺馨（福島診療所建設委員会）

